

2019年度京都市立芸術大学大学院
美術研究科博士（後期）課程入学試験
[英 語 共 通 問 題]

● 解答は全て解答用紙に書くこと。この問題用紙は試験終了後回収します。

A. 次の文章を読み、下線部(1)～(3)の内容をそれぞれ日本語で説明しなさい。
[(1) 14 点、(2) 12 点、(3) 9 点 計 35 点]

この問題は著作権法上の関係により、出典のみを記載しています。

[出典 Ian Condry (2013) *The Soul of Anime: Collaborative Creativity and Japan's Media Success Story*. Duke University Press, p. 2]

B. 次の文章を読み、空欄(1)～(10)に入れるのに適切な語句を選択肢から選び、記号で答えなさい。
[各 4×10=40 点]

この問題は著作権法上の関係により、出典のみを記載しています。

この問題は著作権法上の関係により、出典のみを記載しています。

[出典 Tim McKeough “A haiku of a home embraces the seasons”
The New York Times International Edition (Dec. 8-9, 2018)]

選択肢:

- | |
|---|
| (1) { (A) budget (B) reason (C) skill (D) taste } |
| (2) { (A) banal (B) costly (C) rural (D) sudden } |
| (3) { (A) conceiving (B) conducting (C) containing (D) convincing } |
| (4) { (A) characters (B) discoveries (C) outlets (D) surroundings } |
| (5) { (A) but (B) for (C) nor (D) so } |
| (6) { (A) allows (B) bans (C) covers (D) digs } |
| (7) { (A) hard (B) original (C) proper (D) usual } |
| (8) { (A) emit (B) heal (C) sink (D) wear } |
| (9) { (A) before (B) despite (C) except (D) like } |
| (10) { (A) bankruptcy (B) difficulty (C) efficiency (D) gratuity } |

C. 次の文章の下線部(1)~(3)の内容をそれぞれ英語で表現しなさい。

[(1) 7点、(2)、(3) 各 9点 計 25点]

学生時代の友人である山田君から、今年も年賀状が届いた。(1)たまには会いたいねとお互い毎年書きつつ、結局年賀状のやりとりだけになっている。なんでも昨年から美術系の大学で教え始めたらしい。とはいえ、彼が美術に転身したとは思わない。(2)「教えているのはもちろんドイツ語です。」と、言うまでもないことをあえて書いてくるこのユーモア、昔から変わらない。しかしふと考えてみると、美術教育とは何だろうか。美術の実技や理論を教える人だけが担うものであろうか。いや、異分野の教員から貢献できるものがあっても面白いのではなかろうか。(3)知的好奇心が旺盛な彼のことだ、きっと誰も思い付かないことをしてやろうと考えをめぐらせているに相違ない。私はひそかに期待している。